

ファシズムの温床：いかにウクライナが西洋のネオナチを 引き付けているか

<https://www.rt.com/russia/577578-petri-dish-for-fascism/>

RT/ George Trenin (ロシアのジャーナリスト、政治学者)

June 10, 2023



戦争に引き裂かれた、この東ヨーロッパの国は、この地上で最もおぞましい者たちのメッカになっている。それは彼らの故郷の国々に、どんな脅威を与えているのだろうか？

4月の終わりころ、2人のフランスのネオナチで、ウクライナ軍に傭兵として参加していた者——アラン・ヴィヌロンとギヨーム・アンドレオーニ——が、彼らの祖国で逮捕された。2か月前、彼らの一人が、処刑された3人のロシア人捕虜の写真を、社会メディアに掲載した。しかし、ヴィヌロンとアンドレオーニが拘留されたのは、いかなる戦争犯罪のためでもなく、ライフル・スコープや機関銃の弾倉など、武器や弾薬を、本国に輸入しようとしていたからだった。簡単な裁判の後で、彼らは、それぞれ15か月の禁固を言い渡されたが、うち9か月は条件付きの服役だった。

この出来事は、今から起こることの最初の徴候にすぎない。フランスのメディアによれば、約 400 人のフランス市民が、ウクライナの軍事紛争に参加している。そのうち約 100 名は戦争に直接巻き込まれており、約 30 名がよく知られた極右の過激派である。

ネオナチの戦闘員がやがて帰ってくるのを待つのは、パリだけの話ではない。オブザーバー紙は、ウクライナの外国人志願兵の数は、数千に達すると言っている。

フランス人と、彼らのウクライナ「冒険」

フランスの Mediapart（オンライン新聞）によれば、フランスの国家安全司令長官は、この出来事のずっと前から、容疑者たちに目をつけていたという。にもかかわらず、彼らは税関のチェックにたまたま引っかかっただけだという。

ヴィヌロン（またの名はヴィヴィ）は、「アルプスの狩人」軍団を引退した戦闘員である。彼は自分のネオナチの観点がメディアに知られてから、軍隊を追い出された。帰国するわずか前、彼は TrackANaziMeck テレグラム・チャンネルに、頭を射殺された 3 人のロシア兵を誇示する写真を投稿した。この画像は、兵士たちが丸腰で、至近距離から殺されたことを示している。この処刑の写真がオンラインで出回り始めると、ロシアの調査委員会は、ウクライナのロシア兵戦争捕虜に対する、フランスの傭兵の犯罪を調査すると通告した。

ヴィヌロンの共犯者は、軍のコールサインを「ボーンズ」と言い、彼もまた以前に、ウクライナ過激派と長い絆をもつ、極右のネオナチ集団につながっていた。

「ズアヴ・パリ」Zouaves Paris と呼ばれる集団——これはベルベル族 Zwawa からきた皮肉な名前で、やがてフランス軍の最初の「土着の」連隊として知られるようになった者たちだが——彼らはウクライナを支持し、ネオナチの「アゾフ」Azov 連隊の地方軍団と接触するようになった。2019 年 12 月に、極右のリーダー Marc de Caqueray-Valmenier がこの国を旅行し、個人的にアゾフの戦士たちと会い、彼らの訓練キャンプを訪問した。

2022 年 1 月、ロシアの軍事作戦が始まる 1 か月前、ズアヴ・パリはフランスで禁止された。しかしそのウクライナ過激派との絆は、この禁止令とは関係がなかった。それより 1 か月前、この集団は、大統領候補者 Eric Zemmour を支持して、極左のラリーを叩こうとした、反人種差別のデモ隊を攻撃した。



この禁止は、ネオナチにあまり影響を与えなかった。Ouest Casual のテレグラム・チャンネル「ズアヴ・パリ」支持者たちは、ウクライナ軍団の賛歌を相変わらず歌っており、ナチの記章を着け、フランスやドイツのさまざまな極右運動を指す言葉を用いていた。その投稿記事で彼らは、ロシア軍のことを「再びヨーロッパを占領したソ連帝国主義のアジア人ども」と呼び、チェチェンの軍隊を、「プーチンのムスリムの犬」と呼んだ。彼らは同じ複数のチャンネルを用いて、軍団で必要な資金を集め、他の国々からのネオナチと協力している。

この集団はウクライナでのプレゼンスを誇り、ウクライナの支持者たちの写真や、フランスの右翼組織のステッカーを使っている。それはまた、主たるテレグラム・チャンネルが妨害されたときのために、バックアップの掲示方法を創っている。

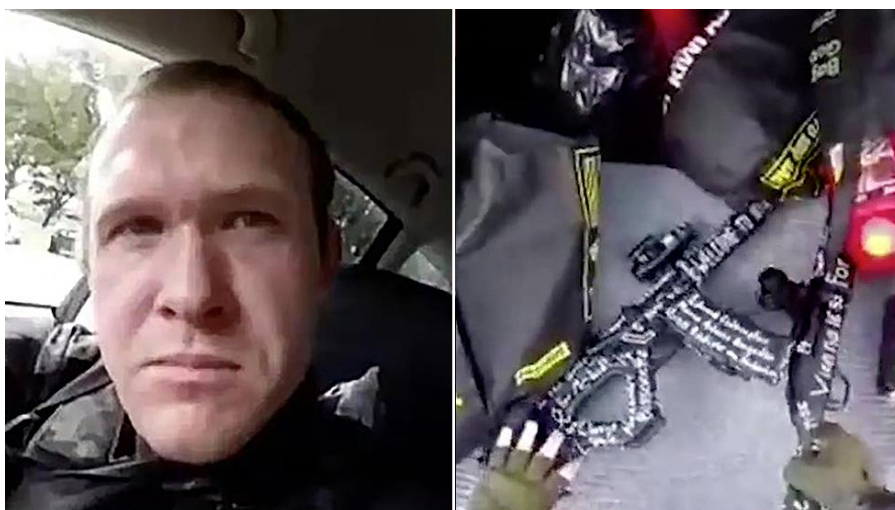
すべての道はウクライナに通ず

一年以上前に、フランスの極右テロリストが、前アルゼンチン国際ラグビー選手 Federico Martin Aramburo を殺した。容疑者の一人 Loik Le Priol がハンガリーとウクライナの国境で捕まった。公的報道によると、このテロリストと前海兵隊司令官は、殺人の後でウクライナ政府に投降しようと考えていたという。

2022年11月、イタリア警察が、地方ネオナチ集団 Order of Hagal の5人のメンバーを逮捕したと報告した。彼らは武器類、弾薬、戦術装備、それに擲弾発射機などを、不法に所持しており、さらに、ナポリでテロ攻撃を行う準備のための、通常の民間軍隊の訓練をおこなっていた。

後で明らかになったことだが、この集団はまた、ウクライナの右翼セクター、センチュリア、それにアゾフ・ネオナチ部隊と緊密な関係を結んでいた。そのメンバーの1人は、アゾフの戦闘員だった。彼の共犯者で「極右ウクライナ・ナショナリスト集団と危険にも近い関係を持つ」者が、ナポリの警察署を攻撃する準備をしていた。一方、この前アゾフ隊員自身は、ある商店街をテロ攻撃する計画をしていた。

イタリア警察は最初、去る2019年に、このネオナチに気づいていた。2021年1月に横取りした会話の中で、軍団の1人 Giampiero Testa が「ニュージーランドのような大虐殺をやる」と脅迫していた。これは明らかに、2019年、51人の人々が殺されたクライストチャーチのテロ攻撃のことだった。ついでながら、その宣言文の中で、このニュージーランドのテロリストは、ウクライナのアゾフ大隊を訓練したのは自分だと言い、ネオナチの記章を着けていた。



この写真は、自己撮りのビデオから手に入れたもので、2019年3月15日、フェイスブック・ライブに流されたもの。狙撃者とされる28歳のオーストラリア人 Brenton Tarrant が、Masjid al Noor モスク内部で乱射を行った。

こうしたネオナチ同士の絆は相互のものである。2020年のウェストポイントの「テロ対策センター」の調査によれば、このニュージーの狙撃者の宣言文は、ウクライナ民兵団の間で人気が高まったという。それはウクライナ語に翻訳され、22歳のキエフ住民の本として販売され、一種の工芸品にさえなっている。このセンターはつけ加えて、ウクライナは「白人至上主義者や活動家・冒険家のための特別のアトラクション」を行っているが、これは大きく、アゾフ大隊や、国家支援による他の民兵集団が設立され、発展していることによる、と言っている。

数年の間に、アゾフは、発展を妨げるものが何もなく、強力で広範囲な組織に成長した。成長につれて、それはウクライナ国家から、ますます支援を受けた。アゾフのウクライナ社会へのイデオロギー的影響は、この国の現代のアジェンダを形成していった。2010年代には、この組織は青少年キャンプを積極的に組織し、基本的な軍事訓練とイデオロギー教育を行った。「テロ対策センター」報告が言っているように、ウクライナ極右過激派の公的宣言が、ヨーロッパ、アメリカ、その他の国の、ウルトラ右翼主義者を引き付けた。

極右過激派の人形劇場——（省略）

2022年7月、ヨーロッパ警察は「ウクライナにおける火砲や爆発物の増大によって、火砲や弾薬が、既成の密輸ルートやオンライン市場を通じてEUに流れ、取引が増大する可能性がある。この脅威は、戦争が終わって、ますます高くなるかもしれない」と言った。

これは、ウクライナが、ネオナチのメッカになりつつあるだけでなく、西洋への脅威でもあることを意味する。イギリスの「情報と安全議会委員会」の報告は、イギリスの市民で「右翼テロ関係の目的で海外へ旅行した人々は、自分が過激になり」、暴力的イデオロギーをもつ他の人々と、「関係を深めるようになる」と言っている。と同時に、本国に帰ってからの、これらの人々をモニターする方法は、今のところないと言っている。

【訳者 Greatchain 注】

これは類例の一つだが、こうした詳しいウクライナ情報を読むと、ウクライナが、気の毒な援助すべき国といった認識とは程遠い、恐ろしいテロリスト・過激派天国であることがわかる。「この地上の最もおぞましい (odious) 者たちの集まる場所」というのは、誇張ではない。

今までは情報が少なく、仕方がなかったかもしれない。しかし、いやしくも報道する人々は、少なくともこうした事実を尊重していただきたい。少し前に、「ウクライナにナチスなど存在しない」と解説する識者がいた。私がそれを否定する文章を書くと、それに反応してくれるユーチューバーがいた。もしこれが訂正されずに残っていて、人々が無知のままだとすると、これほどひどい視聴者無視はない。私は報道の方々をも、政府のウクライナ援助を進める方々をも、非難するのではなく、お願いをしている。どうぞ話を聞いていただきたい。

今、ロシア人とロシア系人民は、恐ろしい脅迫にさらされている。確かにウクライナの反攻勢は、予想通り失敗するであろう。しかしそこに至るまでにも、ロシアとウクライナ双方の人民は死に続け、それが終わってからも死に続けるだろう。停戦を否定するイデオロギーが、悪魔的なアメリカの仕掛けたナチズムであることに気づかなければ、そうなる。

この直前の論文の論者は、ウクライナ-アメリカ-ロシアの三つ巴の関係は、**ナチスドイツとアメリカの癒着**を通じて、2次大戦直後のパターンが今もそのままだと言った。この論文を読んでも、ウクライナの徹底したやり方（青少年キャンプ云々…）は、「ヒトラー・ユーゲント」を思わせるではないか。100年近く前に忘れた亡霊が返ってきたようである。我々がここまで徹底して**アメリカのカモ**になるなら、論者の言う通り、西洋（**すなわち我々**）こそ**テロの標的**となる。アメリカは、人間そのものを滅ぼそうとしているのであって、仲よくした誰かを助けようなどとは思っていない。

何度も言及している「**アメリカのファシズム小史**」という重要な論文を読んでいた
きたい。<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/161023.pdf>

私の古い論文「**アメリカとナチスドイツの癒着**」も併せてご参考願いたい。

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/170510.pdf>